

屋久島生態系モニタリング

屋久島東部(愛子岳)の植生垂直分布調査 (平成 23 年度/2011 年度)

●標高 600 標プロット
 [優占種の変化]

階層区分	2001 年	2006 年	2011 年
高木層(6.0m 以上)	スダジイ	スダジイ	スダジイ
亜高木層(3.0 ~ 6.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層(1.2 ~ 3.0m)	ハイノキ	タイムタチバナ	タイムタチバナ
草本層(1.2m 未満)	ヤクシマアジサイ	ヤクシマアジサイ	イヌガシ

2006 年の草本層で優占種となっていたヤクシマアジサイはヤクシカの嗜好種であるため、食害の影響を受けて、優占度が低下したと考えられる。

[直径階別本数の変化]

2001 年から 2006 年の胸高直径 1 ~ 9cm の本数が増加していたが、原因としては 2006 年の胸高直径 10 ~ 19 cm の樹木が減少していることから、樹冠が開放し、稚樹や幼樹が成長したと考えられる。標高 600m のプロット周辺の森林は現在も成長段階にあると考えられる。

[草本層指標種の出現と消滅]※指標種は No.234 号に掲載。

消滅した種(嗜好性)	消滅した種(不嗜好性)	出現した不嗜好性種
タシロリミノキ	サザンカ	キジノオシダ(暖)
		コウヤコケシノブ
		シマイズセンリョウ
		ホソバタブ
		ホソバノゴギリンダ

平成 26 年度第 1 回 屋久島世界遺産地域科学委員会

10 月 25、26 日の両日、屋久島環境文化村センターにおいて、屋久島世界遺産地域科学委員会およびヤクシカワーキンググループが開かれました。科学委員会は世界遺産に登録された屋久島の自然環境を把握し、科学的なデータに基づいた順応的管理に必要な助言を得るため、学識経験者などによる委員会として設定されています。

会議に先立ち、川端省三九州森林管理局長から「科学委員会が屋久島世界遺産地域管理計画の策定などに大きな役割を果たしてきたことに感謝申し上げるとともに、現在課題となっている山岳部の利用対策やヤクシカ対策、外来種問題などについて、活発な議論をお願いしたい」とのあいさつがありました。また、岩川浩一屋久島副町長から「自然環境の保全

と観光振興が調和した町づくりを進めるために、入島税や入山料などの新たな財源確保やガイド登録認定制度について検討を進めている。また、昭和 55 年に登録されたユネスコエコパークの再登録や有害鳥獣捕獲など多くの課題を抱えており、科学委員会の提言に期待を寄せている」とのあいさつがありました。

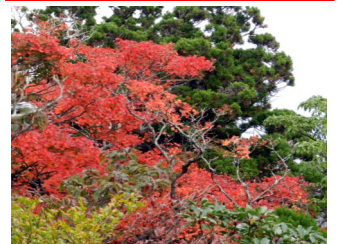
会議は、①山岳部の利用対策②ヤクシカ対策③調査・モニタリング手法④外来種対策を主な議題として始まりまし。

【山岳部の利用対策】
 山岳部の利用対策においては本年度から社会科学系の委員が新たに 1 人加わったこともあり、山岳部利用に関するデータをより一層充実させ、分析を進め、屋久島の山岳部利用のあり方について議論を進めることとなりました。

特に、検討体制については、中長期的な課題設定や検討経過の透明性の確保、住民を含めた検討の場の設定などについて多くの意見が出されました。

【ヤクシカ対策】
 ヤクシカ対策について

屋久島の植物



コハウチワカエデ
 (ムクロジ(カエデ)科)

本州以南に分布し屋久島を南限とする落葉高木。屋久島では標高千以上以上の山地で見られる。葉は、天狗が持っている鳥の羽で作ったウチワ(羽回扇)の形をしている。11 月に紅葉し、他の樹種よりひときわ赤くなる。
 花期 5 ~ 6 月。

は、前日に行われた科学委員会のヤクシカワーキンググループと県の特定鳥獣保護管理検討会の委員合同の会議概要が報告され、今後も県が策定を予定している第二種特定鳥獣管理計画と連携して議論を進めることとなりました。

【調査・モニタリング手法】
 調査に関しては、環境省が予定している山岳部利用に関する調査について調査項目の追加など多くの意見が出されました。

また、九州森林管理局のアブラギリ対策に関する調査や今後予定している駆除試験についても多くの意見が出されました。

そのほか会議では、屋久島町からユネスコエコパークの再登録に向けた取り組みとして緩衝地域

や移行地域の検討状況について説明がありました。最後に、九州地方環境事務所の北橋義明国立公園・保全整備課長から「貴重な意見を踏まえ、今後関係行政機関と連携して屋久島の保護管理を進めていきたい。一層のご協力をお願いしたい」とのあいさつがあり委員会を終了しました。



挨拶する川端九州森林管理局長

屋久島森林生態系保護地域などにおける学術調査等の入林状況（その2）

（平成26年4月1日から平成26年9月30日受付分）

3. 昆虫・鳥類 外

代表者所属	入林目的
尾上 和久	鳥類標識調査
鹿児島県昆虫同好会	昆虫採集
久保田 義則	昆虫生態調査、採集
公益財団法人 山階鳥類研究所	鳥類の捕獲調査
京都大学野生動物研究センター	屋久島における森林環境とコウモリ類生息分布の関連ならびに、一部の種の個体関係の調査
愛知県立新川高等学校	タマムシ、雑虫の分布及び生態調査
滋賀県立大学大学院環境科学研究科	訪花昆虫相(特にハナアブ類について)の調査
(一社)日本森林技術協会 事業部森林保全グループ	調査・研究「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備調査(屋久島地域)業務」のため
国立科学博物館 動物研究部 陸上無脊椎動物研究グループ	屋久島における昆虫類の多様性調査

4. その他

代表者所属	入林目的
総合研究大学院大学日本文化研究専攻 (国立歴史民俗博物館)	歴博共同研究「保護地域制度が周辺地域の生業変化や資源化に及ぼす影響 —持続可能な地域発展における規制のあり方—」の一環として実施される現地視察・屋久島国有林野内に現存する文化・歴史的遺構確認調査 総合研究大学院大学日本文化研究専攻(国立歴史民俗博物館)の大学院集中講義「日本歴史研究の方法B -地域研究の方法-」における屋久島演習実施のため
鹿児島県農業開発総合センター	酸性雨モニタリング(土壌・植生)調査
公益財団法人自然保護協会	屋久島原生自然環境保全地域における気象データロガーメンテナンス及び補足植生調査
株式会社アジア技術コンサルタント	紀元杉バリアフリー遊歩道新設工事整備事業に伴う測量調査業務
株式会社 南日本技術コンサルタンツ	縄文杉を展望する施設(木製展望デッキ)を設置するための調査及び測量
大阪工業大学工学部環境工学科	屋久島渓流水質調査
熊本県森林組合連合会	平成26年度 屋久島国立公園植生保護柵測量を実施するため
一般財団法人鹿児島県環境技術協会 環境生物部	鹿児島県事業「平成26年度道路整備(交付金)環境調査委託(荒川下工区)」にともなう道路沿線周辺の植物調査
(独)産業技術総合研究所 地質情報研究部門	地殻表層における元素広域分布図を作成するための対象試料である川砂を採取